

ぶんかざい おおた

平成 30 年 (2018) 年 10 月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集
文化財担当

〒 143-0025

東京都大田区南馬込五丁目 11 番 13 号
(大田区立郷土博物館内)

TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

目次

◆トピック

2 件の国登録文化財が新たに加わりました…………… 1

◆平成 29 年度事業報告…………… 3

◆大田区指定文化財紹介

古墳石室 (俗称穴八幡) …………… 4

◆新刊のご案内…………… 5

第 21 号

トピック 2 件の国登録文化財が新たに加わりました

平成 29 年 10 月 27 日付で、山王 2 丁目に所在する「塚崎家住宅主屋・門及び塀」ならびに東雪谷 3 丁目に所在する「私の家 (清家清自邸)」が新たに国登録有形文化財 (建造物) となりました。

「文化財登録制度」は平成 8 (1996) 年から始まったもので、築 50 年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを国が文化財として登録することで、「指定」よりも緩やかな規制の中で保存・活用を促そうというものです。

区内では 27 件目の登録となり (うち 2 件は解除)、代表的なものでは「昭和のくらし博物館」や、「勝海舟記念館」として整備中の「鳳凰閣 (旧 清明文庫)」があります。



「塚崎家住宅主屋」外観 (撮影: 須藤史朗)



「私の家 (清家清自邸)」外観 (撮影: 稲葉唯史)



いずれの建造物も個人の住宅であり、自由見学はできません。
無断での立ち入りや過度な写真撮影等をご遠慮ください。



次のページ>>

登録されたのはどんな建物?

「塚崎家住宅主屋・門及び塀」

かつて良好な高級住宅地として形成されてきた山王地区の面影を今に伝える貴重な建造物です。竣工は大正13（1924）年5月といわれ、外観をはじめ全体的なデザインは洋風ながら1・2階それぞれに日本間を構えています。戦後はGHQに接収され、解除後もしばらくはドイツ人に貸し出されており、その頃は土足での生活が行われていました。



玄関（撮影：須藤史朗）

玄関回りには装飾として大谷石が多用されており、当時帝国ホテルの設計等で話題を集めていたF・L・ライ

トの作品に影響を受けていると考えられます。門柱や塀にも大谷石を用いたモダンな意匠が採用され、主屋との共通性が見られることから、今回登録の対象に含まれました。



2階階段踊り場（撮影：須藤史朗）

洋風と和風の融合に巧みな処理を施すなど住宅としての完成度も高く、各所に嵌め込まれたステンドグラス、スクラッチ・タイルとハーフ・ティンバーの外観など、いずれをとっても地域の財産として永く保存すべき価値を有しています。

「私の家（清家清自邸）」

戦後の日本建築界に大きな足跡を残した建築家・清家清（1918～2005）の自邸で昭和29（1954）年10月に竣工、作品名「私の家」として発表されました。部屋のいずれにも扉を設けない一室住居の住まい方を提案した革新的な試みがなされ、日本の伝統的な住まい観と近代建築の技術や手法が調和した空間が生み出されています。



内観（撮影：稲葉唯史）

建築面積は約50㎡とコンパクトながら、清家氏自身が「気候・気象のよいときにはできるだけ戸外で生活するようにすると、小さな家ですむ。『住宅建築』1976年11月号」と語っているとおり、南側に続く庭を「晴



室内から庭を望む（撮影：稲葉唯史）

天時の居間」と捉え、敷石と床面のデザインを連続させるなどして一体感を意識した開放的なつくりとなっています。また、後年に書庫として使用するため屋根をまたぐ形で中古コンテナを載せていますが、よく見ると住居本体とは分離しています。

本建造物は木造ではないため和風表現はあまり見られませんが、時代を切り開いた革新的な実験住宅として、戦後住宅に多大な影響を与えてきた功績が評価され、登録されるはこびとなりました。

平成29年度事業報告

①文化財公開見学会

平成29年度文化財公開見学会は、平成29年11月3日（金・祝）に東京都指定文化財「法華経版木」と、平成30年3月13日（火）に大田区指定文化財「観世音菩薩絵馬」の2回が開催されました。

「法華経版木」は大坊本行寺（池上2-10-5）の所蔵で、天正18（1590）年に刊行された法華経を印刷するための木版です。毎年11月3日には東京文化財ウィーク特別公開事業として一部が一般公開されており、本年度はこれに合わせ、「大坊本行寺の歴史と宝物」と題して本行寺山務員の野中章照氏に講師をお願いし、版木やお寺の歴史についてご解説いただきました。



「御臨終之間」見学の様子

「観世音菩薩絵馬」は正覚寺（萩中1-13-13）で所蔵されているもので、落款から江戸後期の浮世絵師・歌川豊広の初期作品と考えられています。当日は正覚寺より絵馬をお借りして大田区文化財保護審議委員の矢島新氏（跡見学園女子大学教授）を講師にお招きし、萩中文化センターにて「浮世絵師の絵馬」というタイトルで、描かれた図様の解説と浮世絵師が絵馬を描く時代背景等をご講演いただきました。



絵馬解説の様子

②文化財講演会

平成29年度文化財講演会は、梶ヶ山真里氏（独立行政法人国立科学博物館人類研究部非常勤職員・立正大学非常勤講師）を講師に迎え、『人骨が語る古代の大田区—横穴墓出土人骨と被葬者の最新研究—』をテーマに講演いただきました。



文化財講演会の様子

斜面地の多い大田区では、古墳時代の終わりから奈良時代にかけて、古代人のお墓である横穴墓が盛んにつくられましたが、追葬可能な構造をしている横穴墓のほとんどから複数の人骨が出土し、当時の家族を単位とした埋葬が行われていたと考えられています。

斜面地の多い大田区では、古墳時代の終わりから奈良時代にかけて、古代人のお墓である横穴墓が盛んにつくられましたが、追葬可能な構造をしている横穴墓のほとんどから複数の人骨が出土し、当時の家族を単位とした埋葬が行われていたと考えられています。

講演では、人骨の基礎的な知識に関する講義と、平成28年度に大田区教育委員会が委託して実施した山王横穴墓群出土人骨のDNA鑑定の結果についてもお話いただきました。

なお、DNA鑑定の結果は、今年度末に刊行予定の『大田区の埋蔵文化財』第24集に収録される予定です。

③東京文化財ウィーク特別公開「双盤念仏」

今泉延命寺双盤講（矢口2-26-17 延命寺内）が現在まで技を伝える「双盤念仏」は、通常5・7・10月の24日に行われていますが、平成28年度の文化財公開見学会を契機に、毎年文化財ウィーク事業として特別公開が実施されることとなりました。

平成29年度は10月29日（日）に開催され、延命寺の樋口威道住職による講話、双盤講代表の岡崎剛一郎氏による解説の後、双盤念仏の演奏が行われました。



演奏の様子

古墳石室（俗称穴八幡）

田園調布四丁目 33 番 6 番

古墳石室（俗称穴八幡）は、大田区内では唯一開口している横穴式石室で、浅間様古墳（西岡 34 号墳）【大田区遺跡番号 23】の埋葬施設（遺体を安置するところ）にあたります。昭和 49（1974）年 2 月に石室部分が大田区指定文化財（史跡）に指定されました。

古墳は、武蔵野台地の南東端、多摩川に面した南向きの標高約 30m の急峻な丘陵斜面に立地しています。明治時代のスケッチには、鬱蒼とした茂みの中に土饅頭のような墳丘が描かれていますが、その後の開発行為などで周辺の地形は大きく変わってしまい、かつての姿を留めていません。これまでに行われてきた史跡整備に伴う発掘調査の成果や出土遺物から、古墳時代終末期の 7 世紀中頃に築造された直径約 13m の小規模な円墳と考えられています（野本・河合・榊原 2008）。

横穴式石室は、「玄室」と呼ばれる遺体を安置する部屋と、玄室と外部をつなぐ「羨道」で構成されています。凝灰質砂質泥岩という加工しやすい軟らかな切石（長方形や正方形に切り出した石）を積み上げて構築されています。玄室の平面は長方形ですが、上部に向かうにつれて、石材を徐々に内側へせり出すように積んでいるため、断面は台形となっています。

平成 29（2017）年 9 月、SfM-MVS（デジタルカメラで撮影した写真から三次元モデルを生成する方法）を用いた学術目的の三次元計測調査が行われました（川村 2018）。この手法は、横穴墓など、内部空間をもつ遺構の記録に有効なことが分かっています（城倉・青木・伝田編 2017 など）が、新たな調査手法によって、石室の精確な形状、構築技術やその手順、石材の表面に施された加工の痕跡などを詳細に復元することができました。

参考文献

- 川村悠太 2018 「東京都大田区浅間様古墳における横穴式石室の 3 次元計測調査—SfM/MVS を用いた 3D モデルの作成—」『溯航』第 36 号、早稲田大学大学院文学研究科考古談話会
- 城倉正祥・青木 弘・伝田郁夫編 2017 『デジタル技術を用いた古墳の非破壊調査研究—墳丘のデジタル三次元測量・GPR、石室・横穴墓の三次元計測を中心に—①埼玉県東松山市野本將軍塚古墳・②埼玉県東松山市附川 7 号墳・③埼玉県東松山市若宮八幡古墳・④埼玉県行田市地蔵塚古墳・⑤東京都大田区新井宿横穴墓群・⑥東京都大田区山王横穴墓群』（『早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所 調査研究報告』第 4 冊）、早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所
- 野本孝明・河合英夫・榊原智之 2008 「浅間様古墳（区指定史跡「古墳石室」）保存整備事業に伴う発掘調査」『大田区の史跡名勝天然記念物』（『大田区の文化財』第 36 集、大田区教育委員会）



横穴式石室の展開図（SfM による正射投影画像）

画像提供：川村悠太

大田区内には、田園調布を中心に数多くの古墳が見つかりましたが、この古墳は、埴輪の樹立・前方後円墳の築造が終焉した 7 世紀以降につくられた最も新しい古墳のひとつです。区内では後続して盛んにつくられる横穴墓との関係性を考える上で、非常に重要な古墳であるといえます。

〔伝田 郁夫〕

※「古墳石室（俗称穴八幡）」は個人宅に所在するため、非公開です。立ち入りはできませんので、ご注意ください。

新刊のご案内

① 大田区歴史散策ガイドブック「六郷・羽田編」「蒲田・糎谷編」

平成 17 (2005) 年に発行した『大田の史跡めぐり (増補改訂版)』が完売したため、まち歩きガイドブックとして内容を大幅に刷新しました。数時間～半日程度で歩ける範囲でモデルコースを紹介し、実際に文化財関連施設に足を運んでいただけるように、地区ごとのみどころを掲載しています。平成 29 年度は「六郷・羽田編」「蒲田・糎谷編」の 2 冊を発行しました。平成 30 年度は「鶴の木・矢口編」「大森・山王編」と毎年 2 冊ずつ、計 4 年間で 8 冊を作成する予定です。

「六郷・羽田編」では、羽田神社 (本羽田 3-9-12) の区指定有形民俗文化財「富士塚」や「六郷水門 (南六郷 2-35 地先)」をはじめ京急穴守稲荷駅から雑色駅までのコース、「蒲田・糎谷編」では子安八幡神社 (北糎谷 1-22-10) の区指定文化財「石鳥居」や区指定史跡「穂田神社 (蒲田 3-2-10)」など、京急大鳥居駅から東急蓮沼駅までのコースをそれぞれ紹介しています。価格はそれぞれ 1 冊 100 円です。

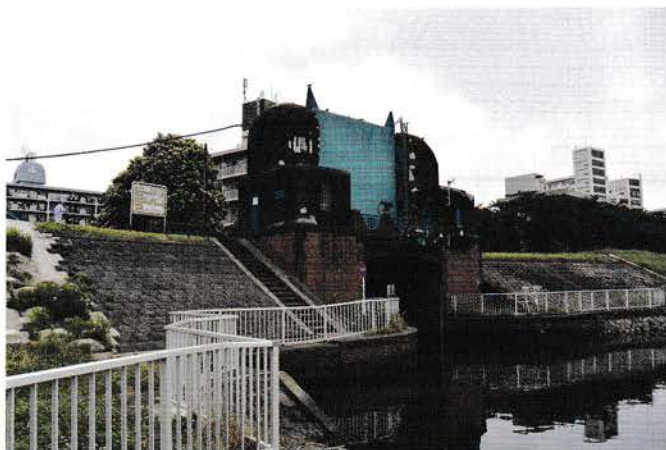


「六郷・羽田編」(上)
「蒲田・糎谷編」(下)



モデルコース①	モデルコース②
穴守稲荷駅	六郷土手駅
↓	↓
穴守稲荷神社	六郷の渡し跡 (北野神社)
↓	↓
レンガ堤防 (羽田の渡し跡)	六郷神社
↓	↓
羽田神社	東福院
↓	↓
自性院	宝幢院
↓	↓
萩中の寺院跡	安養寺
↓	↓
六郷水門	雑色駅
↓	
六郷土手駅	

「六郷・羽田」編のモデルコースと案内図



六郷水門



穂田神社

② 大田区歴史的建造物調査報告書 (大田区の文化財第42集)

国登録文化財「伊藤家住宅主屋」「御嶽神社社務所」「御嶽神社末社一山神社(祖霊社)」「御嶽神社水行堂」[ともに平成28(2016)年度登録]、「塚崎家住宅主屋」「私の家(清家清自邸)」[ともに平成29(2017)年度登録]をはじめ、実測や写真撮影、開取り等を行った歴史的建造物29件の調査成果を中心に編集した刊行物です。

歴史的建造物は、維持管理が困難であることから解体されることも少なくありません。しかし近年、地域文化を知る手掛かりの一つとしてまち歩きや景観計画の対象として、大田区景観まちづくり賞を受賞する事例が出てきたり、その保護保存や活用に関する関心や相談も増えてきて、歴史的建造物に対する周辺環境も変化してきています。

そこで前回の調査から10年以上を経過した平成28(2016)年度、歴史的建造物の残存状況等の変化を確認記録するため、現況確認調査を実施しました。

調査対象とした建造物は410件で、本書巻末には一覧表を収録しました。年代別・分類別に表示したのが下表で、多種多様な建造物が残存していることがわかります。現存数で目を引くのは、(1)江戸末～明治初期、(2)大正期、(3)昭和初期です。(1)は、主にいわゆる古民家といわれる農家・町屋建築で、元海苔漁家の建物も含まれます。建物だけでなく屋敷林や海苔付け・海苔干し場等も一体となって残存した景観は、かつての生活文化を知るうえで貴重です。(2)(3)は大田区の近代化・住宅地化の歴史を知る手掛かりとなる地域遺産ですが、建替え等により次第に姿を消し、激減しています。

なお大田区教育委員会は、昭和50年代以降の古民家をはじめ、近代住宅建築や土木構造物等の歴史的建造物に関する調査を実施し記録保存しています。それらの報告書は、『大田区の民家』(大田区の文化財第16集)、『大田区の近代建築(1)・(2)』(同第27集・28集)、『大田区の歴史的建造物』(同第34集)、『羽田レンガ堤調査報告書』(同第37集)、『六郷水門・六郷排水場調査報告書』(同第40集)です。あわせてご参照いただければ幸いです。



規格 A4判
本文 190頁・口絵カラー4頁
販売価格 1,200円
販売場所 郷土博物館
区役所2階区政情報コーナー

年代	種別・分類	A 建築物			B 土木構造物	C 工作物	現存数	調査総数
		a 社寺	b 住宅	c その他				
01	江戸前期 (1603-1688)	1			1		2	2
02	江戸中期 (1688-1772)		2	1			3	3
03	江戸後期 (1772-1853)	5	2			2	9	9
04	江戸末～明治初期 (1854-1877)	3	6	1			10	10
05	明治期 (1878-1912)	1	2				3	5
06	大正期 (1912-1925)	1	15	2	1		19	34
07	大正～昭和初期 (1912-1935)		2				2	5
08	昭和初期 (1926-1935)	1	38	4	3		46	67
09	昭和前期 (1936-1945)		14	2	4		20	29
10	昭和中期 (1946-1967)		11	9	1		21	24
11	不詳		110	4			114	218
12	昭和後期…(対象外) (1967-)		(4)				(4)	4
	合計	12	202	23	10	2	249	410

大田区所在建造物の年代別・分類別一覧表(本書より転載)